

令和3年度

研修集録



秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校

目次

◇校内研修

●校内研究授業

教 諭 佐藤 亜樹子 2

●職員研修

教 諭 小泉 由起子 5

◇校外研修

●実践の指導力向上研修講座

教 諭 高橋 直子 8

◇湯沢翔北高校相互授業研修

●地歴・公民科

講 師 土田 裕未 1 1

情報科（社会と情報）学習指導案

期 日 令和3年11月15日（月）5校時
 場 所 第1パソコン室
 クラス 1年G組 男子10名、女子2名、計12名
 教科書 新・見てわかる社会と情報（日本文教出版）
 授業者 秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校 教諭 佐藤亜樹子
 （T2 教諭 佐藤 吉彦 学習サポーター 阿部 正太）

1 単元名

第4章 情報社会の課題について考えよう 第3節 情報社会における法と個人の責任 2 知的財産権
 第5章 情報社会の仕組みを知ろう 第2節 情報のデジタル化 2 情報のデジタル化のしくみ

2 単元の目標

知的財産権について知り、様々な権利があることを知るとともに、他者の権利を侵害することがないように、情報社会やネットワーク上において適切な振る舞いができるようになる。

3 生徒観

何事にも意欲的で発言を良くする生徒がいる一方で、居眠りが目立ち、無気力で指示されないと行動に移せない生徒もいる。時に無秩序な状態になることもあるが、授業内容を理解しようと努力している様子はある。コンピュータの操作については、タブレットの使用が他の授業でも始まったこともあり、ほとんどの生徒が身につけているが、ICTに関する知識・ニュースには無関心な生徒が多い。

4 指導計画

【座学内容】

第3節 情報化社会における法と個人の責任（11時間）

- 1 個人情報の保護・・・・・・・・ 6時間
- 2 知的財産権・・・・・・・・ 5時間（本時1時／5）

【実技内容】

動画について（8時間）

- 1 アニメーション・・・・・・・・ 3時間
- 2 パラパラ静止画・・・・・・・・ 3時間（本時1時／3）
- 3 作品制作・・・・・・・・ 2時間

5 単元の評価規準

	関心・意欲・態度【A】	思考・判断・表現【B】	技能【C】	知識・理解【D】
評価規準	・知的財産を保護することで産業や文化の発展に寄与していることに興味を持つ。	・許諾を得なくても著作物を利用できる例・できない例を考え、適切に判断することができる。	・著作物の利用について、事例ごとに関連する著作権法の条文などを調べる、わかりやすくまとめることができる。	・知的財産権を保護しつつ、適切に活用することで産業や文化の発展に寄与していることを知る。
	・デジタル化のしくみに興味を持つ。	・デジタル化のしくみを説明できる。	・ソフトウェアやデジタル機器を用いて、デジタル作品を作成することができる。	・デジタル化のしくみについて理解する。

6 学習計画

過程	生徒の学習活動	教師の支援・指導上の注意	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を理解する。 		
	本時の目標:知的財産権の概要を把握し、著作物や著作権について理解を深める。 :動画のしくみを理解し、どのような動画になるかを想像しながら静止画を撮影できる。		
	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動内容を確認する。 		
展開 40分	【座学内容】 <ul style="list-style-type: none"> インターネットを用いて、語句や質問事項について検索し、スライドを作成する。(Q1～12) 語句や質問事項について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 検索するためのキーワードやスライドについてアドバイスする。 生徒の発表に修正や付け加えをする。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットから目的とする情報を検索し、適切に見つけ、まとめることができる。【B】(観察・発表)
	Q1 著作権とは何ですか。 Q2 著作権が保護している著作物とはどのようなものですか Q3 著作権はいつから発生しますか。また、有効期限はありますか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ワークに記入する。 【実技内容】 <ul style="list-style-type: none"> 作品例を鑑賞する。 撮影する。(10枚程度) ※テーブルごとに撮影する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品例を見てから、静止画を見せ、静止画の連続が動画になることを確認する。 撮影するタブレットは動かないように固定し撮影する。 練習のための作品制作なので、簡単にできる内容にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画のしくみを理解し、連続となるように静止画を撮影できる。【CD】(観察)
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 小テストに答える。 次時の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の発表者と、実技の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 著作権対象物や著作権がどのように発生するか等を理解している。【D】(小テスト)

授業の感想

◎授業者より

毎回授業は、生徒の集中力を切らさない工夫として、前半は教科書の内容、後半は実技として展開している。

今回の授業でも、前半は著作権の内容、その後でパラパラ動画の作成、最後に Google の Forms を利用した小テストを実施したが、盛り込み過ぎて、全て中途半端になってしまった。

なるべく一方的な講義形式にならないように工夫しているが、質問を通して生徒から引き出し授業を展開していくのが苦手なので、今後改善していきたい。

また、生徒たちはタブレットの操作に慣れており、動画についての知識や技術もあるので、自由に創作活動させる時間を設けてやらせてみたいと感じた。

Forms を使用した復習は、授業の最後や、次時の最初に取り入れても有効だと思うので、どんどん活用していきたい。

◎参観者より

- ・思考力を育む授業デザインとして、全員に異なったテーマを与えられていたのはよかった。
- ・15分間のタイムプレッシャーも生徒がキビキビ動く動機づけとして有効だった。
- ・生徒の目線に合わせた説明や指示がとてもわかりやすかった。説明は生徒がイメージしやすい事柄を例にしていたので、生徒はわかりやすかった。
- ・前半、後半で内容を分け、生徒が飽きずに授業に取り組める工夫がされていてよかった。
- ・一人一問の小テストは楽しみながら本時の振り返りができるので、すぐに取り入れたいと思った。
- ・知識のインプットだけに偏ることなく、生徒一人ひとりにスライドを割り当てて興味・関心を引きつける工夫がされていた。
- ・著作権侵害について、実際にあった事例や CM などを紹介してもよかったと思う。
- ・先に正解を伝えずに、生徒たちが失敗を通して学ぶことも主体的な学びによる思考力・判断力を得る機会になるかもしれない。

今年度の研修を振り返る

特別支援担当

小泉 由起子

昨年に引き続き特別支援を担当させていただいた。担当した初年度は、今まで知ることのできなかつた事業所やその仕組みなど特別支援隊を通して学ぶことが多い一年であった。

本校は生徒の情報共有が比較的取りやすい環境であるが、特別支援について職員間の共通認識を図るために、今年度は2つの職員研修を行った。

【職員研修】

1. テーマ：学習への無力感や対人関係に課題のある生徒への対応

～高等学校における通級指導を通して～

講師：横手高校定時制課程 教諭 藤谷 淳一 氏

実施日：令和3年7月28日（水）

内 容：①学習につまずきのある生徒の多くが「授業の面白さ」に敏感

授業が「つまらない」と感じると生徒の心は授業から離れそれを見て、教師は「話を聞いていない、集中していない」と思ってしまうがち。それは授業を変えるきっかけになる。生徒に考える場面を与え、反応させる場面をつくることで「面白さ」に繋がる。

②生徒理解は「守備範囲」を広げること

教師が余裕を持つことで生徒を理解する枠が広がる。但し「直そう、正そう、変えよう」という熱心な無理解者にならないようにしなければならない。そうすると生徒の状態を悪化させることに。

③できないを積み重ねてきた生徒たちは、頑張ろうとしない、理解しようとし ない、自分でやろうとしない

こういった生徒は「学習性無力感」を起こし、同年代がしていない「すごいこと」をすることで、バランスを保とうとする（例：SNSなど）。

④生徒の自己効力感を高めてあげないと、学習した「スキル」を活用する ことをあきらめる可能性がある

ソーシャルスキルトレーニングをし、できることを増やし、生徒の感情をのせていく。

感想：講話を聞いていると「まさにその通り」「自分自身も生徒への対応を見直していく必要があるのでは」など考えさせられ、授業の展開方法や生徒との関わり方を変えていかなければいけないと思うのだが、なかなか実行できずにいる。これは自分自身の心の余裕のなさであると実感している。

生徒の価値を高めるために、自己効力感を少しでも高めることができる場面を作っていくことを心がけていきたい。

2. テーマ：就業支援の取組と実践例について

～「夢の実現」に向けて～

講師：湯沢雄勝障害者就業・生活支援センター

センター長兼主任就業支援員 後藤 則男 氏

実施日：令和4年1月18日（火）

内容：①障害者就業・生活支援センターの役割

国と県の委託を受け障害者の就業と生活の支援を行っている。当施設は秋田県には8センターある中の一つである。

②働くという「夢の実現」に向けて

個々の特性を把握し、各種の支援制度等を活用しながら一般就労を目指させる。それは「～をしたい、～になりたい」という淡い期待ではなく、「～をする、～になる」という強い意思決定からはじまる。

③実践例

自閉症、学習障害、精神・発達・高次機能障害など今まで夢の実現を応援してきた人たちの例を紹介。

④障害者を取り巻く新たな流れ

障害者雇用促進法の改正（合理的配慮と教育的配慮）を受け、他県には障害者を向け入れている私立の高校がある。また、本人の特性に見合った仕事のマッチングを実施している企業もあり、合理的配慮から発生した新たな考えの一つと言える。

感想：最近の悪しき傾向として親も含めて「嘘をつく、ごまかす」子どもが増えてきているという話があり、その場をしのぐために嘘をついたり逃げたりする生徒が本校にも数名見られるため、その内容は非常に印象深かった。色んな事例を紹介していただいたが、親が自分の子どもの状況を受け入れることができずにいる（認めることができない）事例もあり、その子どもにとってどんな環境が生きやすいのだろうかと考えさせられた。また、人口減少が続く秋田県の現状を踏まえ、教育と子育てのしやすい環境づくりとインクルーシブ教育の実践として、インターンシップを早期に実施し受け入れ体制を作った方がいいという後藤氏の考えは、就職指導で困難が予想させる本校の生徒にとって、ぜひ取り入れて欲しい取り組みであると思ひ興味を持って聞かせていただいた。今後も生徒の就業について湯沢雄勝障害者就業・生活支援センター連携をとっていきたい。

【センター研修】

テーマ：学級づくりに生かすアドラー心理学

～勇気づけで共同体感覚を育てる～

講師：文教大学教育学部教授 会沢 信彦 氏

実施日：令和3年7月29日（木）

感想：人間の最も基本的な欲求は「所属欲求」であり、生徒は『クラスに居場所が欲しい、教師に認めて欲しい、家族に愛されたい』という欲求を持っているため、それが満たされないと不適切行動を起こしてしまい、それを教師は問題行動と受けとめ、その後は生徒の問題面にしか目がいかなくなってしまうという内容が印象に残った。問題を起こすのは原因があつてのことなのだが、原因よりその先を重視することが大事であるという話は、校内で実施した職員研修でも取り上げられており、『どうしてそのような行動を起こしてしまったのか』ではなく、『そのような行動をとることでどんな影響が自分に起こるのか』ということを感じさせる指導をしていかなければならないと思った。

「植物が太陽と水を必要としているように、子どもは勇気づけを必要としている。不幸にも、最も勇気づけの必要な子どもが最小のものしか得ていない」というドライカースの言葉を学び、勇気づけの大切さを実感した。勇気づけは褒めることとは違い、生徒の人格を重視した加点主義で向き合うことであると聞き、生徒の持っている面をプラスに転換した見方ができるような心がけていきたい。

日 時 令和3年7月5日（月）4校時
 授業者 秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校 高橋直子

1. 単元名 第2章 自立に向けた介護の展開 第2節 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
 （中央法規 介護職員初任者研修テキスト2 自立に向けた介護の実際）

2. 単元の目標

サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で楽しい食事の支援について理解できる。

3. 単元と生徒

3年生から本科目の学習を開始した福祉系選択者8名で、介護職員初任者研修の修了を目指して意欲的に授業に取り組んでいる。本単元では、介護の基本である食事の支援について理解するために、食事の意義や目的、安全面への配慮、誤嚥の防止や脱水の予防など、自立に向けた食事に関する基礎的な支援方法と留意点などについて実習を含めて扱う。活動的な授業には興味・関心を示す生徒もいるため、知識習得と活動のバランスを取りながら展開したい。

4. 指導の計画(10時間)

①食事に関する基礎知識	・・・3時間
②誤嚥や窒息の予防	・・・2時間
③脱水の予防	・・・2時間（本時6 / 10） 予定では7月5日（月）4校時
④食事介助	・・・2時間
⑤口腔ケア	・・・2時間

5. 本時の計画

- (1) 本時のねらい 高齢者が脱水になりやすい原因について考えさせ、理解させる。
 (2) 授業展開 (50分)

段階	学習内容	学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価
導入 (5)	1 挨拶 2 今日の流れを確認 3 今日の「P」の追加記入	・挨拶をする。 ・今日の流れを見て確認する。 ・今日の「P」の部分を加筆する。 ・自分の「P」を発表し、他者の「P」の発表を聞く。	・記入ができていないか見回る。 ・板書を写す以外に補足を足したり自分なりに大事だと思うことを書きこぶよう指示する。	
本時の目標：高齢者の脱水の原因について考える				
展開 (40)	1 脱水とは(6) 2 脱水の症状(7) 3 高齢者が脱水になりやすい理由は(27)	・脱水の状態や症状について知っていることを話す。説明を聞く。板書を授業プリントに書く。 ・脱水の症状について説明を聞き、板書を授業プリントに書く。 ・高齢者が脱水になりやすい理由についてこれまで学習してきたことを参考に理由を予想する。→ プリントに書く。 ・“ヒント”のプリントを読んで付け足す。 ・個人 → 数人で話し合う → 発表。	・板書の書き写し進捗を確認しながら進めていく。 ・脱水の経験の有無を尋ね、どのような症状があったか発言させる。 ・自分の考えを基に近くの席の人と話をさせ、プリントへ書くよう指示する。 ・考えさせ、作業が滞っている時は“ヒント”を基に再び考えさせる。書き終えた人にも“ヒント”を見せ、自分の予想と比較させ加除訂正させる。 ・記入進捗を確認しながら次の指示を出す。 ・個人 → 数人で意見交換 → 発表	・課題の解決へ向けて、主体的に取り組んでいる。 【B…授業プリント、話し合い、発表】
本時の山場				
まとめ (5)	1 本時のまとめ	・「D」「C」の記入をする。	・次回の授業で脱水になりやすい理由と、脱水の予防方法について学ぶことを伝える。 ・目標・評価シートの提出について説明する。	・目標について振り返ることができる。 【D…目標評価シート】

【A:関心・意欲・態度】 【B:思考・判断・表現】 【C:技能】 【D:知識・理解】

実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）を受講して

福祉科 高橋 直子

◇研修の目標

自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

◇研修内容

I 期 令和3年6月30日（水）秋田県総合教育センター

- ・不登校の未然防止と対応
- ・学校組織の一員として –自己理解に基づく目標設定–
- ・カリキュラム・マネジメント

II 期 令和3年8月17日（火）秋田県総合教育センター

- ・授業評価による継続的な授業改善
(学習指導案、授業を録画したDVDを総合学習センターへ事前送付、グループ別協議)

◇録画を実施した授業

令和3年7月5日（月）4校時 3年生福祉系統選択者 科目名：生活支援技術（別紙指導案参照）

◇授業を計画した経緯

- ・P D C A日誌の活用

本単元は、学習指導要領の科目の目標を踏まえ、サービス利用者の状況に応じた、根拠に基づく安全・安楽な基礎的な介護技術を身に付けることができるようにすることをねらいとしている。介助内容の手順、方法、留意点、その方法の根拠、声のかけ方等を理解しながら介助を行うために、生徒自身が達成度を自己評価して技術を確実に身につけられるように「P D C A日誌」を活用しながら学習している。これは、P D C Aサイクルを用いた学習・評価シートのことである。学習指導と学習評価の充実を図る上で、この日誌を普段の授業でも常時活用して、授業での生徒の学びを教師も振り返り、学習や指導の改善に生かしていきたいと考えた。

- ・学習指導の方法

本科目の学習方法について、これまで一斉型の授業で教員が一方向的に教える傾向にあった。そのため、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習過程の改善を教師の目標として、これまで学習した内容を活かして話し合いをする時間を設定した（別紙学習指導案参照）。また、授業の効率化や生徒同士の学び合いを進めるため、電子黒板と書画カメラを活用して授業を行うよう計画した。

◇振り返りおよび研修を受講しての振り返り

授業は概ね計画どおりに実施できた。生徒が自分の思考を整理し、他の生徒の意見を聞いて共有し、まとめ、発表する場面では、どの生徒も意欲的に取り組んでいた。振り返りのシートには「楽しく学べた、こういう学習も良いと思った、次もがんばりたい」等、前向きなコメントが記されていた。課題自体は大きな課題ではなかったが、これまで学習してきた「高齢者の心身のさまざまな特徴」を基に思考を深める学習活動ができたということは、知識の定着の確認にもなると感じた。

しかし電子黒板と書画カメラの活用については、黒板も併用しながら進めた方がよりよいと感じた。

I C T活用学習は手段であって、目的ではないということを再認識した。

II期の総合教育センター研修では、自分の授業を撮影したDVDと学習指導案を事前に提出し、それを各グループで観ながら協議した。教科の垣根を超えて研修のグループが編成されていたため、他教科の多種多様な学習指導を学ぶことができた。これまで考えたことのない視点に気付かされるなど、充実した研修だった。研

修の最後の時間には、担当指導主事から指導助言をいただいた。今後の授業にどのように改善し、活かしていくか、

その部分を大切にするように、と伺った。

教職経験者研修では「あきたキャリアアップシート」を総合教育センターに提出することになっており、今回の研修で初めて活用した。研修を受講した8月と、年度末の2回、自己評価を提出した。秋田県教職キャリア指標に基づき、今後も自己の課題に積極的に取り組み、授業のみならず教職員としての資質、能力を向上させていきたいと思う。

また、総合教育センターでの研修の開催については、当時、県内独自のコロナ対策警戒レベルが引き上げられ、教員が集まった開催が危ぶまれた。そのような中、感染予防対策を講じながら研修の場を設けていただいたことに、心から感謝している。この仕事に従事している者として、生徒のためになることはどんどん取り入れていきたいし、一生学び続けたいと考えている。オンラインではなく、直々に先生方のお話を聞くことができ、先生方の熱意を感じたと共に、まだまだこれから邁進していかなければという感情を強く抱いた日になった。

湯沢翔北高校相互授業研修報告〈地歴・公民〉

臨時講師 土田 裕未

期 日	見学：令和3年12月7日（火） 授業：令和3年12月10日（金）
日 程	14：10 ～ 15：00
教 科	地理歴史（世界史A）
場 所	湯沢翔北高校
対 象	3年 D組 工業技術科
授 業 者	土田裕未 臨時講師
<p>1 授業について</p> <p>(1)本時のねらい</p> <p>イギリスがどのように植民地を拡大したのかを理解する。</p> <p>(2)授業の流れ</p> <p>導入：既習事項の重要語句確認「帝国主義」</p> <p>展開：①風刺画を読み解きイギリスの帝国主義をつかむ (スエズ運河買収について)</p> <p>②地理の確認 (スエズ運河 インドへ向かうルート)</p> <p>まとめ：Google forms で確認小テスト・感想記入</p> <p>2 感想</p> <p>今回授業をさせて頂いた3年D組工業技術科は男子31人女子3人のクラスだ。</p> <p>事前に本校の授業の様子を参観した際、反応が良く、活気のあるクラスで、活発に発言できる男子生徒が授業のムードを形成しているという印象を受けた。何か問いかければ周りとお話し合って考え、反応を示してくれるので助かった。</p> <p>学習範囲は「イギリスの帝国主義」からできるところまでと依頼されていた。課</p>	

題を「イギリスはどのように植民地を拡大したのかを理解しよう」と設定して、イギリスが世界での影響力を強めることになった背景や出来事を捉えるのがねらいだった。

今回良かったと思う点は Google Earth を上手く使いこなせた所だ。イギリスの植民地の要衝を視覚的に印象付けられたと思う。地球儀を自由に拡大・縮小したり、現地の様子をすぐに写真で見ることができるこのコンテンツもこれからも利用し、歴史的な理解と共に地理的な理解も深めることができればと思う。

授業の内容自体ははずしていないが、重要語句の説明により時間が大幅に押した。講義的になってしまう時間を削減し、生徒の思考を促す時間を増やしたい。また、発問に対しての返答が期待したものではなかったときのフォローがうまくできなかった。間違いをフォローしながら授業に活かすことが苦手であり、自分の課題であると感じる。

普段とは異なる生徒を対象にして授業をするということで緊張したが、温かい雰囲気でもらい、反応の良い生徒たちのおかげでスムーズに展開できた。雄勝校には地歴科教員は自分しか在籍していないため、このような機会で本校の地歴科を含む先生方にじっくりと授業を参観して頂き、御指導御助言を頂くことができ貴重な機会になった。今回の経験を今後の授業にしっかり活かしていきたい。

3 参観していただいた先生方から

- ・電子黒板を効果的に活用していた。
- ・風刺画は漫画感覚で親しみも湧き、良い教材だと思う。
- ・一度書いたものは消さずにできるだけ残すようスペースを考えて板書すること。
- ・声に強弱をつけるのは大事だが若干聞こえにくい。もう少し声を張った方が良い。
- ・なぜ植民地が必要か、わかりやすく説明されていた。
- ・「金融」「海運」等の用語は簡単な説明が必要だと思う。

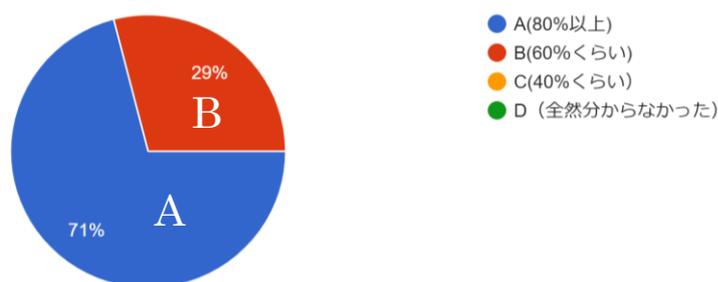
- ・ グーグルアースを使用したことで地理的な理解が深まったと思う。
- ・ イギリス～スエズ運河～スエズ運河インドのルートを書かせたのが良かった。
- ・ 生徒の発言は消さずに、生徒の意見を活かしてまとめることができれば良い。
- ・ 生徒の発言は間違っているコメントし、授業に活かして行ければ良い。
- ・ 答えられない生徒にはヒントを出して導くなど、良かった。
- ・ 教科書は「読んでみよう」ではなく、なぜ今読むのか、読んで何をするのか、と

いった目的を告げると生徒の取り組み方も違ってくると思う。

- ・ 話し方や取組にメリハリのある授業を意識すること。

4 生徒たちの振り返りシートから

(1) 授業内容の理解度



(2) 本時の授業で理解したこと、考えたこと、自分の課題、質問、感想等

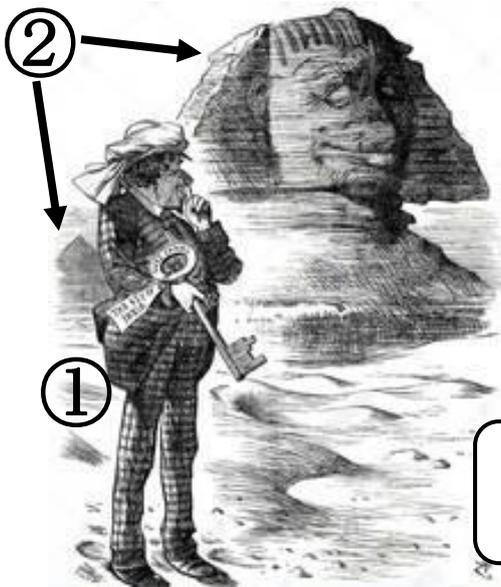
- ・ イギリスはインドへの道を開く鍵であるエジプトのスエズ運河を手に入れたことがわかった。
- ・ 「世界の銀行」と言われるほどお金持ちのイギリスがすごい。運河を買い取ることができることに驚いた。
- ・ いつもと授業形態が違ったがわかり易かった。
- ・ イギリスがインドまでどのような経路で行ったかを知ることができた。
- ・ 世界がどのように帝国主義になったのかを理解することができた。
- ・ まだ「帝国」という意味がよくわからない。

課題 イギリスはどのように植民地を拡大したのかを理解しよう

教科書159ページ

イギリス「世界の工場」→「★

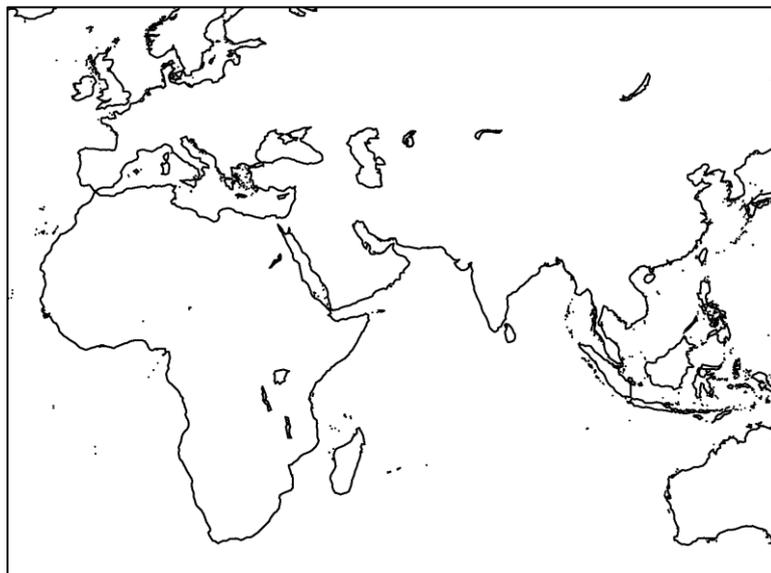
」として世界経済を支配し続ける



- ①の人物は誰？
- ここはどこ？②をヒントに考えよう
- ①の人物が手にしている鍵には何と書かれているか。

この風刺画が表しているのは？

イギリスは（ ）への道を開くカギである
 （ ）の（ ）を手に入れたぞ



作業1. 今までに出てきた国名と地名を全て書き込もう。

作業2. イギリスのインドへのルートを書き込もう
 イギリス — スエズ運河 — インド



インド風の服を着てヴィクトリア女王に王冠を渡しているのは…

[A] 首相 (保守党)
 1875年 (B)
 1877年 [C] を皇帝とする
 (D) を成立させる。

[E] 首相 (自由党)
 1882年 エジプトを保護国に

[F] 植民相
 1899年 (G)
 →南アフリカの植民地拡大

作業3. インドのカルカッタ、エジプトのカイロ、南アフリカのケープタウンを探して上の地図中に書き込もう。

作業4. この3点を線で結んでみよう。

ここの三角地帯を押さえるというイギリスの政策を (H) 政策という。